

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市中条 1-14
評価実施期間：平成 29 年 5 月 1 日～平成 29 年 7 月 27 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050192 060861 060773 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 29 年 7 月現在）

事業所名：軽費老人ホーム ヴィラ緑風苑	種別：軽費老人ホームA型
代表者氏名：理事長 安田 正義 (管理者氏名) 施設長 中塚 毅	定員（利用人数）：50名
設置主体：社会福祉法人 綿半野原積善会 経営主体：社会福祉法人 綿半野原積善会	開設（指定）年月日： 昭和 55 年 6 月 5 日
所在地：〒395-0244 長野県飯田市山本 6719-6	
電話番号：0265-25-3960	FAX 番号：0265-25-3961
ホームページアドレス：www.wn-sekizenkai.or.jp	
職員数	常勤職員： 10名(1名育休中) 非常勤職員 0名
専門職員	(専門職の名称) ※人数は重複あり 准看護師 1名
	社会福祉士 1名 栄養士 1名
	介護福祉士 8名 介護支援専門員 5名
施設・設備 の概要	(居室数) 50 (設備等) 食堂、浴室、医務室、給湯室
	トイレ、洗面、洗濯室、体育館、喫茶室、作業室

3 理念・基本方針

(法人理念)

施設の利用者が、健康で平安な充実した生活を送ることができるよう、個人を尊重しつつ愛と奉仕の精神をもって援助する。

(事業所スローガン)

私たちは安心して、心地よい、その人らしい暮らしができるよう、共に築きます。

(事業所 10ヶ条)

- 1 私たちは明るい挨拶と笑顔で接します。
- 2 私たちは敬意を持った言葉遣いや態度で接します。
- 3 私たちは押しつけのない、思いやりの心で接します。
- 4 私たちは自分がされて嫌なことはいたしません。
- 5 私たちはあなたの立場に立ち、気持ちにより添います。
- 6 私たちはあなたのニーズの把握に努めます。
- 7 私たちは共に楽しめる時間を大切にします。
- 8 私たちは心穏やかに生活できる居場所を作ります。
- 9 私たちはあなたとの良い信頼関係を築きます。
- 10 私たちは常に学ぶ姿勢を持ち続け努力します。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

- ・地域との関係作りに取り組んでいる。
 - ① 毎年4月、近くの小学校の新入生に、入居者の皆さんが牛乳パックに折り紙で化粧して作った手作り筆立てを寄贈させてもらっている。
 - ② 近くの温泉旅館より不要となったタオルを寄贈してもらい、入居者の皆さんが余暇活動の一環として雑巾作りをしている。昨年は、12月にその雑巾をロール状にしてクリスマスケーキに見立て、地域の児童養護施設と保育園の3ヶ所を訪問し、サンタクロースに扮した入居者から手渡しで寄贈した。
 - ③ 地域の保育園2ヶ所、養護老人ホームと定期交流を継続している。
 - ④ 7月の納涼祭は地域の人や関係するケアマネなどに参加をしてもらい交流を図っている。
- ・各種教養娯楽の活動に取り組んでいる。
 - ① 午前健康体操として、職員が講師でストレッチ体操、各種ドリル、講話、散歩、季節によっては山菜採りなどを行っている。隔月で外部からの健康運動指導士によるストレッチ体操あり。
 - ② 午後は手芸、字を書く会、ビデオ鑑賞会、色鉛筆の会、民謡の会、なんでも会などを行っている。隔月で外部からの音楽療法士によるコーラス活動あり。
- ・年3回、5人程度の少人数で外出をする小グループ活動を実施している。近隣の名所巡りや外食、買い物など外出の機会や社会的交流への支援をしている。
- ・周囲の豊かな自然を活かし、散歩や畑作業、環境整備などを通して心身の健康維持に取り組んでいる。
- ・職員の限られたマンパワーを最大限活かせるよう、入居者一人ひとりの必要な支援を見える化(数量化)する取り組みを始めている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	3回（平成24年度）
---------------	------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1<人事考課>

事業所は、人事考課の目的と役割を全職員に周知し、年度の事業計画に併せて、一人ひとりの具体的な実施計画を作成している。個人目標・評価シートを活用し、職員の職務遂行にあたっての能力と行動及びその成果を、自己評価している。それに対して、事業所の評価基準に沿って、施設長が評価を行い、その結果を人事考課に繋げている。これを上期と下期の年2回実施し、個人面接を行いフィードバックして取り組み状況を確認している。このことが、職員個々の仕事に対する意欲を喚起し、事業所の活性化に繋がっている。

2<利用者の安全確保の取り組み>

最も基本的なサービスである利用者の安全を確保する仕組みが組織として整備されている。事業継続マネジメントに取り組むことによって、さらに管理者始め職員に防災、緊急時、事故、衛生管理に対する取り組みを意欲的にしている。マニュアルの整備は勿論、事故発生時の対応も迅速で、その日の内に組織として対策、評価、再発防止の措置が取られている。食糧の備蓄は厨房委託業者の他に事業所独自でも行っている。また、入居者も一人ひとり「非常持ち出し袋」に非常時に必要な物品を常に用意し、年2回の点検をして有事に備えている。

3<満足度向上に向けた取り組み>

運営方針の“利用者に満足していただける福祉サービスの向上に努めます”の具体的取り組みとして、年度末にアンケート調査（聞き取り）を行っている。アンケート内容は、教養娯楽、なんでも会、旅行、保証人さん、全体行事、小グループ活動、支援計画など生活全般、多岐にわたっており、結果をまとめて検討し改善や個人の支援に活かしている。また、毎月の利用者全体懇談会では、その都度行事等についてアンケートを取って見直しをはかっている。食事についても、利用者を5グループに分け、各グループ持ち回りで月1回給食委員会を開き要望を聞くなど、満足度の向上に向けて取り組んでいる。今回の第三者評価のアンケート結果も参考にして、さらに満足度が向上する取り組みが期待される。

◇特に改善する必要があると思う点

1<中・長期計画>

中・長期計画は、法人の理念や基本方針の実現に向けた取り組みが示されている。さらに、老朽化への対応や軽費老人ホームの今後について等緑風苑としての方向やビジョンの実現に向けた計画を作成し、単年度の事業計画に活かされることを期待したい。

2<研修計画の立案と全職員の人権についての研修>

各職種別、施設内、法人内、県内外への研修は積極的に参加している。研修報告の分析を行い、感想を含めて会議等で報告し共有している。今後、法人の基本理念、事業所のスローガン実現、職員の質の向上に向けて、組織としての研修計画、職員の個人目標に添った研修計画がたてられることが望まれる。また、年に一回以上の人権尊重の研修を計画・実施されることが望まれる。

3<標準的なサービスの実施方法の文書化と見直し>

37年間の実績をもとに、利用者に必要な生活支援を提供している。今後、一定の水準以上のサービスを保つよう、積み重ねてきた実績を標準的なサービスとして文書化することが望まれる。また、その際には、生活支援のなかでの利用者尊重、プライバシーの保護について話し合い、明示されることを期待したい。さらに、実施方法については、定期的に利用者アンケートや職員の意見を参考に見直しをされることが望ましい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

評価対象Ⅰ及び評価対象Ⅱ（別添Ⅰ）

評価対象Ⅲ（別添Ⅱ）

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添Ⅲ-Ⅰ）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添Ⅳ）

平成29年8月10日記載

前回の受審から4年が経過し、職員の異動などで、前回受診時から半数以上が入れ替わっており、経営、運営幹部も今回初めての受審であった。評価表の記入を通して、日々の業務で不足していたことに気づき、評価調査者の訪問調査により不足していたことの理解を更に深めることができた。

今回の受審により、より良い事業所となるための気づきを与えていただいた。今回指摘された点は着実に改善を図り、3年後の受審を今から計画していきたい。